

編集後記

テレビの前に釘付けとなった平昌冬季オリンピック・パラリンピックも終了し、いよいよ2019年ラグビーワールドカップ(RWC)、2020年東京オリンピック・パラリンピック(オリパラ)の出番となってきました。RWCでは観客動員数200万人、東京オリンピックで1,000万人、パラリンピックで200万人が見込まれていますが、単純に言えばオリパラは短期間に東京の人口が2倍になり、RWCは観客数はやや小規模であるものの会場は北海道から九州までと広範囲になります。感染症は、人の集まり、人と物の動きの大きさと速さで、発生・拡大のリスクが高まるので、両大会の前には感染症に対する警戒、備えが必要です。

さて昨年(2017年)は夏にRSウイルス感染症の流行的発生、今シーズン(2017/18年)のインフルエンザはA型B型インフルエンザウイルスの混在、そしてこれまでにない高い流行のピーク(定点あたりの報告数)がみられた等、よくみられる流行性疾患の疫学状況に変化があらわれ、小児の臨床現場でも少なからぬ戸惑いがあったことと思います。本誌では2017年11月増大の「トピックス RSウイルス感染症—2017年夏の流行をうけて」として冬の流行前にその概要をまとめました。これらの流行状況の変化が一時的なものか持続的なものかはその動向をよく見ていく必要がありますが、次のRSウイルスシーズンへ備える、という意味で今回は「改めて

見直すRSウイルス」として特集を組みました。第一線のRSウイルス研究者、臨床の先生方のご協力を得て、疫学、気象条件、診断、合併症、治療・ワクチンの現状と進歩、パブリズマップの適応、感染制御の立場からの対応等をテーマに、RSウイルス感染症について幅広い、重厚な特集ができたことと自負しています。加えてRSウイルス重症例(急性脳症)の症例報告も頂き、特集と同時に掲載ができました。一般小児科医の方にも、感染症分野を専門とする小児科医の方々にもぜひご一読頂ければと願っております。

また総説としては、抗体産生不全症について原因遺伝子検索から新たにわかってきたその多様性、有機酸・脂肪代謝異常症の診断治療の進歩、診療として日常的に接する下痢・便秘、あるいは爪の形態・足の動き・運動の問題、不整脈治療、そして日本から新たに発信されたANCA関連血管性中耳炎の概念の解説、症例として花粉果物アレルギー(アナフィラキシー)、生姜による食物依存性運動誘発アナフィラキシー、目で見ると小児科に投稿いただいた脳卒中様発作症候群(MELAS)、腎尿路系の最新論文レビュー等、ぜひ目を通していただきたいものとして春の月号を読者皆様にお届けする次第です。

(岡部 信彦)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄(ABC順)

小児科

第59巻第4号 4月号
2018年4月1日発行(毎月1回1日発行)
定価(本体2,600円+税)
年間購読料金
定価(本体41,000円+税)
〔年間13冊(増刊号、増大号を含む)の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕
※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社
発行者 福村直樹
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14
Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕
Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕
Fax 03(3813)0288
<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>
振替口座 00130-1-191269
印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005
広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

- ・本誌に記載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は金原出版株式会社が保有します。
- ・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。